

上条 報告

第17号

平成22年10月

甲州市教育委員会
☎32-5097

古都・京都の 伝統的建造物群保存地区

古都・京都は世界遺産にも登録されている、世界的にも有名な歴史的景観を有する場所であり、多くの観光客が訪れる日本最大の観光地でもあります。中学生の修学旅行の定番でもあり、皆さんも一度は観光にお出かけになったことがあると思います。

その京都府には五ヶ所の伝統的建造物群保存地区があります。私たちがよく観光に行く中心地には「祇園新橋」「参寧坂」の二ヶ所、やや中心地から外れたところに「上賀茂」「嵯峨鳥居本」の二ヶ所、山間部に「美山町北」の一カ所です。古都らしく「参寧坂」「上賀茂」「嵯峨鳥居本」は、社寺の門前町として発展した町並みで、「祇園新橋」は珍しい茶屋の町並みです。美山町北については、以前ご紹介しましたが、今回は中心地の「祇園新橋」と「参寧坂」について、最近見学する機会がありましたので報告します。



京都市祇園新橋（茶屋町）

所在地	京都府京都市東山区本吉町、末吉町、清本町及び橋本町の各一部
種別	茶屋町
条例制定年月日	昭和五一年四月一日
選定年月日	昭和五一年九月四日
地区面積	約一・四ヘクタール
保存物件数	建築物 五六件 工作物 一六件 環境物件 六件

祇園新橋は祇園舎をはじめとする鴨東の社寺や鴨川に接して開け、中世以来、庶民の文化や芸能を育ててきたところで、江戸初期の鴨川の築堤工事により、鴨東への市街地の拡大と遊行の地として発展してきました。当地区は、祇園外六町に続いて、正徳二年（一七一二）祇園内六町の茶屋街として開発されたのが始まりで、江戸末期から明治期にかけて芝居・芸能と結びついて繁栄し、今日に至っています。

東西約一六〇メートル、南北約一〇〇メートルの範囲で、地区面積一・四ヘクタールは全国の伝建保存地区中最小と見られます。



祇園新橋の町並み

建物は切妻造・椀瓦葺・平入・二階建てで、元治二年（一八六五）の大火直後に建てられたものです。一階に格子を付け、二階は座敷となつて正面に縁を張り出して「すだれ」をかけています。

「祇園」といえば、多くの方が「舞妓」を連想することと思いますが、最近は体験で舞妓に変身できるところが増え、そういう「変身舞妓」が街中を歩いているのを見かけます。

洗練された建物群と石で舗装された路地、地区内を流れる白川、辻に安置する辰巳大明神など、舞妓が歩いても違和感のない景観が保存されている地区です。



町並みを歩く変身舞妓



地区内を流れる白川



辻にある辰巳大明神



京都市参寧坂（門前町）

所在地

京都府京都市東山区祇園町南側、清水二丁目、清水三丁目、下川原町、南町、鷲尾町、金園町、八坂上町及び榎屋町の各一部

種別

門前町

条例制定年月日

昭和五一年四月一日

選定年月日

昭和五一年九月四日

地区面積

約八・二ヘクタール

保存物件数

建築物 二〇四件
工作物 一一一件

環境物件 五五件

京都は平安建都以来ほぼ政治の中心地として、騒乱により町並みは喪失と再建を繰り返してきました。現在の町並みは維新の争乱により市街地の大半が失われたことから、明治期以降の町並みが基盤となっています。

参寧坂地区は、京都市の東山山麓に散在する歴史的な社寺（清水寺・高台寺・八坂神社など）を巡る参詣道に沿って発達した門前町で、江戸中期以降に町並みが形成され、明治・大正期の市街地の拡大により現在に至っています。現在の道に沿う茶店や伝統工芸品などのみやげ物を商う店は、江戸時代の名所巡りの様相を伝えているものと考えられます。

京都東山山麓の各社寺を巡る参詣路は、高低差が大きいのですが、参道は比較的緩やかな坂道として、参道につながる脇道は石段などを利用して整備されており、この傾斜地に造られた町屋の家並は、現在その多くが何かしらの商売をしており、国内外の観光客や修学旅行生が常に訪れている、京都でも

人気の高い地区になっています。

参寧坂は、清水寺の参道「清水坂」の寺正面近くから、北の高台寺や八坂神社をつなぐ町並みで、「二寧坂」や「石堀小路」など、周辺の社寺と合わせて非常に古都らしい景観を残しています。

いささか観光地化しすぎている趣もありますが、歴史的な建造物をそのまま活用しているという感じでしょうか。平成八年には地区を拡大し、住宅地も地区に入れ込んでいますが、近代の住宅も京都らしい景観の一部として保存されています。



参寧坂を散策する観光客



二寧坂周辺（上下）



参寧坂の町並み（左右）

